

## 産 業 建 設 委 員 会 会 議 録

1 日 時 令和6年9月17日（火曜日）

開会 午後 1時 1分

閉会 午後 2時37分

2 場 所 第1委員会室

3 出席又は欠席した委員の氏名

（出 席） 委員長 三 上 周 治

委 員 太 田 善 介

委 員 深 見 昌 宏

委 員 加 藤 保 博

副委員長 小 西 利 一

委 員 荒 木 将之介

委 員 小 川 進 一

（欠 席） なし

（その他出席者） なし

4 職務のため出席した議会事務局職員の職氏名

議会事務局長 西 村 佳 子

同次長 宇 野 裕

同庶務調査係主事 柴 田 美緒子

5 説明のため出席した者の職氏名

なし

6 調査事項及び報告事項その結果

調査事項

（1）赤米フェスタについて（議会事務事業評価）

7 議事経過の概要 別紙のとおり

8 その他必要な事項 別紙のとおり

開会 午後１時１分

○委員長（三上周治君） ただいまから産業建設委員会を開会いたします。

本日の出席は７名であります。

これより、所管事務調査を行います。

本日は、議会事務事業評価の調査を行います。各委員から提出いただいた対象事業の評価シートを取りまとめたものを配付していますので、休憩中に各対象事業について各委員の評価内容を御確認ください。

しばらく休憩します。

休憩 午後１時２分

再開 午後１時１２分

○委員長（三上周治君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、調査事項（１）赤米フェスタについて（議会事務事業評価）の調査に入ります。

調査事項の調査に当たり、私より申し上げます。

本日は、議会事務事業評価を行うため、お手元の議会事務事業評価シートにより自由討議を行い、委員会としての評価を決定するよう考えております。

それでは、これより評価シートを基に自由討議を行いたいと思います。

加藤委員から順番に御発言をお願いします。

○委員（加藤保博君） 皆さん、お手元にあるんだと思うんですが、市民ニーズは、有名な歌手を見たいという一部の市民の方だけではないんでしょうけど、そういうことが表に何か出過ぎてるなと思っています。

必要性については、すること自体にそう大反対でもないんですが、赤米の本来の歴史、伝統などの本質が消えてしまってるということを感じます。

費用対効果は、イベント開催の費用なので、その本質がどうのこうのということを抜きにしたら、このくらいの金額は仕方がないかなと思っています。

目標の達成状況は、目標が何なのかということがあまり見えてこないもので、単なる音楽イベントにしか思えません。あとは、下段の二つのところですね。

○委員長（三上周治君） はい。

○委員（加藤保博君）（続）評価理由としては、赤米という新本地区の古来からの歴史ある神事がそもそもの原点であります。しかし、先ほども言いましたように、単なる音楽祭になってしまっている。県外からも多く来られるんでしょうが、市全体が一丸となった催物とは何か思えません。

改善・提案内容ですが、赤米の神事という、その原点に戻って、長年苦勞されてきた新本地区の方をねぎらうというような意味で、新本地内で新本地区の人を中心として招待するとか、いろんな歌手の方も呼べばいいんでしょうけど、あくまでも新本地内で新本地区の方のためにというのをメインに、そこへ市内外から参加されるのは自由だと思いますが、そういう縮小という意味です。

以上。

○委員長（三上周治君） 次、深見委員なんですが、書かれてませんのでゆっくりしゃべっていただきたいと思います。お願いします。

○委員（深見昌宏君） それでは最初に市民ニーズ、これは私の周り、同年代の特に女性の50代、60代、70代の方から結構問合せが僕に入ってくるんですよ。こういうものって、総社市民に100%理解されてるとは私は思いませんけれど、文化とかこういうものは二、三割が評価しとけばええのかなという、そういう思いであります。それで、私の思いからしたら、ニーズが高いというふうに評価をさせていただきました。

それから、2番目の市が実施する必要性というふうにあります、こういうものを個人でやっていこうと思ったときには、なかなか文化的なこういう事業というのは、市なんかが主催していかないと、人が集まって楽しめるこういうものというのはなかなかできにくい。これはもう民間がこういうことをやろうと思ったら、それこそお金のこと、費用対効果のこと、全てを考えてやらんといけんというふうに思うんで、これは市民が楽しめる人がおるんなら、それはもうぜひ私は市がやるべきかなというふうには思いますけれど、後ほど言いますけれど、民間委託という選択肢もないことはないというふうに思います。

それから、費用に見合った効果、一番難しいんですけど、何の事業をするにしても費用対効果って、これは単純にお金で換算できないところというのは私はあると思っております。こういう市民が楽しめるような事業、どれだけの人がじゃあ楽しんどるんですかって、別にアンケートを取ったわけじゃないですから分からないですけれども、ちなみに先日行われた赤米フェスタなんかは2,000人以上の人が来られとったと。動画をいろいろ見させていただきました。みんな笑顔で拍手したり、ライトを振り回したりしていましたけど、総社市民がどのくらいおられたかというのは、それはどうでもええ話なんですけど、そういう楽しめるイベントが総社市にあるというのは大切なことかなというふうに思って、効果的であるという2番のほうに丸をしました。

それから、目標の達成状況なんですけど、先ほども言ったように、市民の2割、3割の人が楽しめるイベントであれば僕はええんかなって、こういう文化ってそんなにみんながこぞって、半分の人がいいというように思わなくってもいいんじゃないかなという、文化ってそういうもんかなという、それはもう個人個人の思いがありますので、成果はあるというふうに書かせていただきましたけど、これは本当に私の個人的な意見でございます。

最後のほうの評価理由は、そういう問合せが、誰が来る、来んは別として、今年はあるんかな、今年是谁が来るんか知らんけどチケットを買っといてくれんかなって言われる人が結構おられるんですよ。そういう意味でも、ある程度市民から認識はされてる。これもやはり全体の何%か分らるんですけど、そういうふうなことで私は評価理由として割と高得点をあげております。

改善・提案内容ですけれど、ここに書いておるとおり、委託ができるかどうかを再度検討というふうに書いてますけども、委員長が言われるように、市の職員がどれだけ負担感があるのか、そう

いうことを踏まえたら、どれだけの市の職員がこれに携わってるかどうか、こういうことは大切なことだろうと思うし、あまりにも負担感が強過ぎるようだったら、これは民間へどっか委託ということも考えてもいいのかなというふうには思ってます。ただ、金額のことがありますから、市がやってるからこの金額でできるとかということもありますし、個々でタレントを呼んだらあんな金額じゃできない、あの金額以下でもできると、これはもうプロポーザルする人間によって全然変わってくると思うんで、そういったことも含めて検討はしてもいいのかなというふうには思います。

○委員長（三上周治君） 荒木委員、お願いします。

○委員（荒木将之介君） 評価シートに従ってになるんですけども、最初の市民ニーズについては、会場のキャパの問題もあるんでしょうけれども、例年1,500名程度の動員ということで、今年度は2,000人だったということなんですけれども、仮に観客全員が総社市民だとしても2%しかないということで、市民の2%のための事業なのかなと考えると、ちょっと満たしてるのかどうかというところは疑問ではありました。今年度は早めに手ぬぐいがなくなって、僕の周りでもどっか余ってないかという声をたくさん聞きましたので、その下の、席を増やす要望がないなら市民ニーズは低いと言わざるを得ないと書いてあるんですけども、今後もっと大きくなるのであれば、大きくしてほしいという声があるのであれば、当然ニーズは上がってくると思うんですけど、これを記入した時点ではこのような評価でありました。

次の、市が実施する必要性なんですけれども、上記のニーズの観点から考えても、限られた一部の市民のためのイベントに公費を投入する価値はなかなか見いだせないなと考えております。2%、3%であればもうちょっとほかのところに公費を投入することも考えたほうがいいのかというふうに思っております。

費用に見合った効果なんですけれども、市内外へのPRには一定の効果はあるとは思っております。今回も、要は手ぬぐいがないかという問合せがたくさんあったということは、注目はされているというふうには思っております。少なくとも1,500枚売り切れてしまって、さらに声があったということは、それだけの効果はあるとは考えております。ただ、増え続けている決算の額に見合った効果の上乗せ、要は毎年増えている、増えているからには毎年さらなる上乗せ効果があるのかなということを考えると、そこまではないのかなというふうに考えております。また、決算には見えないが、職員を動員しているということは、そこに人件費が本来発生しているわけです。ですので、この部分のことを考えると、実際の市の負担は決算額以上であると考えております。そこも加味して、費用に見合ったものかというふうなところを考えると、効果は分からないですけども、費用としては結構かかっているのかなというふうに考えております。

目標の達成状況ですが、赤米文化の保存や地域活性が目的であるならば、収益から新本地区に助成するなどの予算措置があってもいいのではないかと考えております。現状では、手ぬぐいの売上げを総社市赤米ヒカリノミ基金に繰り入れております。総社市赤米ヒカリノミ基金は、この赤米の伝承地である3市町の交流事業なんかに使われておりますので、赤米を保存するということで

は、予算として回ってるんですけども、新本地区に対する助成という意味ではなかなかそこが使われていない、このイベントからは回っていないということで、そのあたりがもうちょっと目的としては薄いのかなというふうに考えております。

PR効果については、上でも触れましたけど、もしこれが、今年は多かったんですけども、例年という手ぬぐいが余ったりもしている状況でもありますので、PR効果が低いのであれば、赤米フェスタに使ってる予算を、赤米フェスタを縮小するなどして、地域への助成に振り替えるというほうが正味かなというふうに考えております。

下段の4番、評価理由なんですけれども、赤米関連事業の中でもPRや周知、文化の伝承、保存に寄与しているとはなかなか思えない規模かなというふうに考えております。特に、伝承、保存という意味、新本地区になかなかお金が落ちてないんじゃないかということを考えると、どうなのかなというふうに考えております。収支がプラスで、その収益を保存事業に充てるなどの目的があるならともかく、現状では公費や職員を投入し、単純にコンサートを行っているだけにすぎない、市民のニーズにも応えるためのものともなかなか今の動員数を考えると思えないかなというところではあります。

最後に、今後の改善・提案内容なんですけれども、決算が見えにくい、不透明な上に全市的なイベントとは考えにくいので、当該事業については廃止ないしは民間に譲渡し、市は一定の補助金を交付するにとどめるべきであるということで、廃止というのは極端な話だとは思っておりますが、市が1円も出すなとも思ってはいません。こういったイベントに補助金なんかを出してる例はいっぱいありますので、いいんですけども、今、市が主催してやってるという現状で考えると、職員がいろいろと事前の準備も、当日の準備も、片付けも携わっている。補助金は徐々に上がりつつあるというところなので、補助金というか、観光プロジェクト課の負担が増えているという状況ですので、どこかで線を引いて、特に今年は動員が多かったということでもありますので、イベントや動員が増えてくれば、イベンター等の民間でもやっていけるような事業になると思いますので、今の規模だから中途半端で市がお金を出して、その負担がどんどん増えていってという状況なのかなとも考えております。あくまで縮小とか廃止というのは、観光プロジェクト課に対する負担の部分の話でありまして、イベント自体は続けてもらっても構わないし、何だったら大きくしてもらったほうがPRにはなるとは思ってます。けれども、今のレベルであればこのような評価が妥当かなというふうに考えております。

以上です。

○委員長（三上周治君） 太田委員なんですけど、太田委員も空白の部分があるので、ゆっくりしゃべってください。お願いします。

○委員（太田善介君） 今回ちょっと厳しい感じでつけさせていただきました。

一番最初の市民ニーズについてですけども、僕の周りでは、赤米フェスタに参加したいとかという方がほとんどおられなかったもので、こういう形でつけております。

市が実施する必要性に関してなんですけども、この間お話を伺った限りであれば、ほぼほぼ運営に関してはプロダクションに丸投げしているようなところがあるのであれば、そこまでやる必要性はないんじゃないかなと思っております。

費用に見合った効果について言うと、そもそも費用を計上する段階の費用の算出がよく分からない。それがプロダクションに言われた金額なのか、市が出せるマックスなのか、よく分からないところがあって、ここが、効果と言われましてもよく分からない感じです。この辺の透明性を持っていろいろ資料を出していただければいいんですけども、ということで5点ということにしました。

目標の達成状況についてですが、そもそも皆さんが言われるように、赤米云々かんぬんという部分が正直何もない、これであれば赤米ってつけないほうがいいんじゃないかなという気がします。

全体評価としては、問題があるのかなと思ってます。評価理由については、運営自体を民間のプロダクションに投げていることが、結局それが毎年随意契約みたいな形で続いているようにしか僕には見えないので、であればもういろいろ大っぴらにさせていただいて、運営ができないというのであれば、それこそ民間に投げてしまうというのも一つかなと思いますし、そもそも赤米とつけていて、何も生んでないというか、市としても収益があるわけでもなく、ただ毎年予算を食い潰してるだけであれば、続けていいものなのかというところを思ってます。

改善点に関しては、今後も続けるのであれば、当然予算の使い道を明文化させていただいて、逆に規模を大きくして、例えば2日、3日、ほかのところがやってるようなフェスという大きな形でやっていって、例えば県外から人が呼べるとか、市内でも行きたい人が増えるとかというイベントにしていくのであれば継続でもいいとは思うんですけども、ただただ今の状況を続けていくのであれば縮小という手もあるのかなと思ってます。

以上です。

○委員長（三上周治君）　ありがとうございます。

私より申し上げます。皆さん、手書きで書かれる方に共通するんですが、1の項目別評価というのはそれぞれ皆さん点数を書けるんですけど、その合計点数を基に2の全体評価というのは、そこに書いてありますように、例えば太田委員であれば合計点数25点ですから、2のかなり問題があるということでもいいんですけど、その2の評価を基に今度は3の事業内容を書くんです。そうすると、全体評価が2の場合は事業内容の評価は2なんです。だから、1というのは出てこないんですよ、表で見るとね。そういうことも皆さん頭の中に入れていってください。

小川委員、お願いします。

○委員（小川進一君）　項目別評価ですが、1の市民ニーズについてですが、これは参加者の市民の比率が分からないんで、どれだけ市民の方がこの赤米フェスタに出かけられとるか。私も今回はゲストがよかったから行きたいなと思ったんですが、早々に売り切れとったんで買えなかったということがあります。市民の比率ができれば知りたいなという思いがあります。

2は、市が実施する必要は低いと書いてあるのは、イベント会社に投げても運営はできる、費用はかかるかも分かりませんが、ただし現状でも幾らか残って総社市赤米ヒカリノミ基金へ回っとなで、それはそれでいいのかなとは思っております。

次にも関連があるんですけど、費用に見合った効果、費用対効果をもう一度よく検討して、民間委託にするかどうかというような判断も必要になってくるんじゃないかと思います。

4番の目標の達成状況についてですが、何度も先ほどから赤米とつける必要があるのかというような意見も出てきましたが、これはもう総社音楽フェスティバルでも内容によって人が集まるんじゃないかなとは思っています。やっぱり、赤米をみんなに知ってもらうよりはイベントがメインになっておるんで、それがいかがかないかという思いがあります。

下の評価理由ですが、同じ内容ですが、コンサートがメインになってくるということですね。

最後の5番ですが、改善・提案内容、赤米のことをもっと知っていただくような、例えば由来とか、食べてどんなとか、そういうことをもっと周知できるような、赤米のことをやっていったらどうかと思います。

以上です。

○委員長（三上周治君） 小西副委員長。

○委員（小西利一君） 一番上、市民ニーズですが、市民にとっては、行かれた人はあれだけの歌手があつた値段で見れるのは相当喜んだんじゃないかと思います。そういうことでは、市民にとっては、見に行った人はよかったんじゃないかと思います。

市が運営する必要があるのかどうかということ、さっきも言ったように、みんな赤米という冠がついてるんでそれなりの意味はあるんだと思うんですけど、多分参加されてる人はそんな全く関係なくて、音楽イベントを楽しんで聞いたというだけの話になつたんじゃないかと。

費用に見合った効果というんですけど、これは市から持ち出しが多分1,000万円近く出てると思います。そのうちイベント会社が740万円ぐらい取って丸投げでやってるんですけど、本来、赤米とか総社市赤米ヒカリノミ基金の趣旨に賛同してくれる人が参加して、例えばコンサートを開いて、売上げの浮いた部分ですか、それを全額市のほうに使ってくださいというのが本来のやり方じゃないかなって私は思っていて、そうなると入場料も高くなるんですけど、例えば5,000円とか1万円です。コンサートを開催しました、出演者の出演料も少しまけてもらって安くしてもらって、会場費とかも全部引いて、残りが500万円残りましたから、これを総社市赤米ヒカリノミ基金に寄附してください、総社市で使ってくださいというふうなほうが普通の考えじゃないかと思うんで、これは市が1,000万円出して丸投げしてイベントやって、手ぬぐいの売上げは総社市赤米ヒカリノミ基金に入れましたっていったら、お金は市が出して、何か矛盾してるような気がしてならないんですよ。だから、趣旨としてはいいんだけど、やり方がどうかというのがあるって、そもそもあそこでやる必要があるのかなというのもあったり、ただ屋外であそこのロケーションがいいところでやるのは伸び伸びして気持ちがいいし、あそこはあそこがいいところがいっぱいあるんだけど、案外市

民会館のほうでやってもいいんじゃないかというようなこともあります。

目標の達成というのは、さっきも言うたように個人個人全部違うんで、よかったという人もおるし、やっちもねえやめてしまえという人も結構おられると思うんで、その辺はちょっと分かりません。

全体評価は、上の点数からいうたら4になるんですけど、このまま本当に今後続けていくのかどうかは改善する余地があると私は思ってて、これからずっと1,000万円ずつお金を出していつてあれだけの事業をやって、もう限界があるかなと思ってます。だから、次の予算規模も現状維持になってますけど、今のままやるんだったらもうこれが本当の限界で、それ以上も以下もないんじゃないかなと。続けるに当たって、これは評価が難しい。だから、現在のやり方のことですけど、本当に市民は楽しんでるんですけど、さっきも言うたように、皆さんが言うように、本当に赤米との関係がどうかとか、明朗会計なんかどうかというのが、検討の余地があると思います。さっきも言うたように、開催場所はあそこはあそこでもいいんですけど、安全面とか、いろいろ今後イベントのことを考えたら市民会館でやってもいいのかなと。そうになったら赤米の冠が変わるかも分からないんですけど。ただの音楽イベントになるかも分かりませんが。ちょっと難しいですね、この評価は。

感想としては以上です。

○委員長（三上周治君） ありがとうございます。

私も評価を言わなきゃいけないんで。それでは、記載のとおりでございますが、若干私も深見委員と同じように点数が高いのかなと思って、大分遠慮しながらつけた気なんです。

じゃあ、(1)番の市民ニーズの関係です。先ほどから皆さん言われているように、皆さん行かれてる方、行かれてない方がおられるのかもしれませんが、盛り上がっているということであれば市民ニーズはあるのかなという判断なんです。そこに書いてあるとおり、皆さんも言うてくださったように、赤米フェスタは地域の伝統文化を学びながら継承するということに重きを置かなきゃいけないのに、若干派手な部分ばかりが目立ちだしたなという反省はしておりますが、一応そういう判断をしております。

それから、市が実施する必要性ですが、これは本当に本当に本当に本当なんです。無理です。市役所の職員がするようなイベントではなくなって、もうでか過ぎると思っているので、その辺のことはもう反省材料として今後は検討していただきたいと思います。

それから、費用に見合った効果、もうこれは深見委員が言われたとおりで、費用対効果というのは誰も知りません。だから、極端に言うたら、1人喜んで僕らは費用対効果があるんだと言われればそうなんです。一つの参考として、昨日の山陽新聞、これ、全県版に赤米フェスタのことを載けてもらいました。我々やってる人間にとったら、こういうところに載ることは非常に効果があったという判断の一つの材料にはなるんですけど、そういうことも考えたりしています。だから、効果的であるというふうに、遠慮して20点をつけました。何でかと言ったら、先ほど、小川委員、手

ぬぐい買えなかったと言われるんですけど、正直言って多分市民の方のほうが圧倒的に多いと思います。なぜならば、総社市って広報が下手ですから市外の方に伝わるまでには多分売り切れてたんだと思うんです。受付でもう早くからよく買いに来とるから、そこで一々どっから来たんですかというのは、聞ける状態にありませんので、なかなかアンケートというのは取れないと思うんですが、広報が下手な総社市のことを考えると圧倒的に市民が多いんだろうなという気はします。

それから、目標の達成状況なんですけど、目標というのが皆さん分かってないという言葉は失礼なんですけど、最初始めたときは赤米を見ながら備中国分寺をバックにというコンセプトで始めたんですけど、赤米がないとコンサートの意味はなかったんです、当初は。ですけど、いつの間にか大きな大きなイベントになって、コンセプト、理念がどっかに持っていかれたというのは反省材料ではないのかなという気がするんですけど、今の状況では目標達成はおおむねできてるかなというふうに判断しました。

2の全体評価というのは、1の項目別評価が65点ですから、もう仕方なしに4になります。4になると、下の欄に書いてあります、3の今後の方向性の事業内容は、全体評価が6から4の場合は5から3で4になります。ここが4になると、仕方なしに予算規模は3になるという、ここは機械的にこうなったんで、事業内容は4、予算規模は3です。評価の理由というのは、長年続けられたというのはそれなりに効果があった、成果があったのかなと思いますが、皆さんの言われたとおり、本当に市民のためになっているかというところは難しいので、今後はその辺のことももう少し考えてやる必要があるのかなと思います。

改善というのは、皆さんの意見をまとめますと、行政がやるイベントとしてはもう限界が来ているから、できれば、理想を言うと総社市観光協会みたいなところをお願いしますみたいなのが一番いいんですけど、残念ながら総社市観光協会にはそんな力がございませんので、プロのイベント屋に流すという手もあります。

休憩いたします。

休憩 午後1時44分

再開 午後2時17分

○委員長（三上周治君） 休憩を閉じます。再開します。

本委員会の委員会項目別評価ですが、まず市民ニーズにつきましては10点、それから市が実施する必要性については10点、費用に見合った効果については10点、目標の達成状況については10点、取りまとめて40点といたします。評価コメントについては、委員長が後ほどまとめさせていただきます。

その下の委員会評価のところは3点になります。今、皆さんいろいろ話されたので、小西副委員長から主立ったものだけ、箇条でいいんでピックアップして発言を願います。

小西副委員長。

○委員（小西利一君） 問題があるになったんですけど、この問題があるは、イベントが大きくなり

過ぎて市の職員の手に残つてと思うんで、今後続けるのであれば、そこを改善する余地があると思います。あと、赤米の新本地区との関連性がもう希薄なので、今後続けるのであれば、もう少し新本地区の赤米に特化した内容に変えるのもこれからの課題だと思います。

以上です。

○委員長（三上周治君） ありがとうございました。

休憩いたします。

休憩 午後 2 時 18 分

再開 午後 2 時 18 分

○委員長（三上周治君） 休憩を閉じ、再開します。

全会一致というのを小西副委員長、言ってください。

（「委員長、お願いします」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） それでは、私のほうから発言します。

全会一致、大勢一致、要検討につきましては、全会一致とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 御異議なしと認めます。

それでは、休憩します。

休憩 午後 2 時 19 分

再開 午後 2 時 19 分

○委員長（三上周治君） 休憩を閉じて再開します。

本件についての本委員会としての評価結果は、事業内容につきましては、改善し継続するが 3 名、見直しの上縮小するが 2 名、休止・廃止するが 1 名となりました。これを平均すると、4 か 2 になるんですが、どのようにいたしましょうか。改善し継続するか、見直しの上縮小する。

荒木委員。

○委員（荒木将之介君） これは個人の評価シートの全体評価で点数で評価が出て、今後の事業に対する方向性というのと同じ項目なので、同じやり方じゃ駄目なんですか。

○委員長（三上周治君） 平均。

○委員（荒木将之介君）（続）平均というか、今委員会評価が 3 になってて、要は委員会項目別評価の合計点数が 30 から 50 点だから 3 になったじゃないですか。そうなったら、個人の評価シートでいうと全体評価 6 から 4 が事業内容が 5 から 3 とかあったじゃないですか。それと同じに倣ってあげばいいんじゃないんです。

（「見直しの上縮小するになるんじゃないん」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 荒木委員から今お話がありました、個人の評価と合わせてやると委員会評価が 3 となりましたので、ここも 3 にすると 2 になる。

（「見直しの上縮小する」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 3だから2になります。

（「別に縮小せんでも」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） お諮りします。

一応、数字を3にしたらここは2にくるんですけど、今、皆さんのお話が出てますので、多数決にします。

現状のまま継続するか、見直しの上縮小するかの2択になりますので、採決したいと思います。

（「見直しの上継続するんじゃないん」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 休憩します。

休憩 午後2時22分

再開 午後2時33分

○委員長（三上周治君） 休憩前に引き続き会議を開催します。

今後の事業に対する提案ですが、皆様の御意見を聞いたところ、事業内容については3、予算規模についても3、理由については荒木委員から発言をお願いします。

（「理由についてですか」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） さっきしゃべってたようなことをしゃべって。

荒木委員。

○委員（荒木将之介君） いろんな御意見があったと思います。継続すること自体は悪いことではないと思っています。このイベント自体を否定するものではなくて、問題があるとすれば、市の公費が年々上がっていているということと職員の手を使っているということ、この2点が問題があるかなというふうに考えます。ここについては縮小というか、市が完全に民間に譲渡する、委託するという方向で考えてもいいのかなというふうに思っております。私の意見としてはそうなんですけれども、ですので現状のまま継続するとはいいながら、現状では問題があるということです、その点について検討していただきたい。予算も現状維持ではありますが、委託であるとか、譲渡であるとか、民間にお任せするということも含めて検討していただきたいというふうに思ってます。

○委員長（三上周治君） 他に御意見はありませんか。

副委員長、何かありませんか。

小西副委員長。

○委員（小西利一君） 先ほども言ったように、赤米フェスタを今後継続していくのであれば、新本との関連性とか、そういったものをもっとアピールする必要があるし、市役所の職員の負担が大分増えているので、そこをもっと軽減するような策を具体的に考えてほしいと。それは民間委託も含めてということです。

○委員長（三上周治君） 他にありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） ないようであれば、本件についての本委員会としての評価結果は事業内

容は３番、予算規模は３番とする、なおその評価とする理由は主に先ほど委員から述べられたようなことがありますので、それらの意見を踏まえて、委員長において集約することとします。このようにいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 御異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

なお、委員会としての評価結果は、今後開催される予定である全員協議会に報告させていただきます。

以上をもちまして、本日の調査事項は全て終了いたしました。

これをもちまして、本委員会を閉会いたします。

閉会 午後２時37分